

令和元年度 富士まかどショートステイ事業報告書

1 事業運営の概況

令和元年 6 月まで介護職員不足の対処の為、定員を 10 人に削減しての運営となる。人員の補強が出来ず運営が困難となったため、定期利用者になるべく影響の無いよう調整し、7 月 2 日以降休業としている。その結果、年間延べ人数は 638 人、前年度対比 27.9%となった。

2 事業計画実施状況

(1) 介護サービスの質の確保・向上

① 部署目標カードを作成し、部署目標の達成に向け定期的に検証し目標達成に努めた。

② 稼働率 42%以上での運営

ア. 人員不足の対処の為、7月2日以降を休業となり、本年度の稼働率は前年度より 22.6%減少し 8.7%となった。

イ. 居宅介護支援事業所への空き情報提供に努め、課題整理総括表及び 24 時間シート並びに利用者 happy シートを作成することで、自立支援介護に努めた。

ウ. 苦情となりうる項目や事故防止対策ヒヤリハットを最大限に活用し、チームでの検討・情報共有することで、迅速かつ適切に対応し苦情・事故ゼロに努めた。

エ. 施設全体の年間行事に参加した。利用者様の満足度を上げるため、日々レクリエーションは機能訓練を中心とし、四季を感じられる行事等の余暇活動を取り入れ充実を図った。

③ 重度化への対応

利用者への細やかな対応ができるよう体制作りに努めた。介護度が低い方の利用が多く、平均介護度 2.6 となった。

④ 医療ニーズへの対応

他職種と連携し、医療的処置の範囲を広げ利用者を増やせるように努めた。

(2)コスト削減への取り組み

① 節電対策

照明使用の必要性やエアコン設定温度を徹底することで、基礎電気料の年間デマンド前年度最高値 133kwより 3kw削減した。

② オムツ使用量の削減

利用者に合ったオムツの種類や回数の見直し、使用量の削減を図った。

③ 備品管理

物品使用量や価格の見直しを図り、また備品等の清掃を定期的の実施したが、開所から7年経過し修繕費は例年並みとなった。

(3)積極的な専門委員会の活動

施設と合同で各種委員会を開催し、積極的に参加することで情報共有や課題等を反映させた。

(4)職員の資質向上

内部研修には、積極的に参加させた。不参加の職員については、課題に対してレポートを提出させることで職員の知識や資質向上に努めた。外部研修は、職員不足の為、参加が少なかった。

(5)事業継続活動(BCP)の運用体制の確立

防災対策委員会において、災害発生時における利用者と職員の安全を守るための事業継続計画を検討し、策定した。